



自然に感謝し 地域の発展に尽くす

伊藤雅章さん(60)
静岡県・沼津教会



マルニシ製茶
〒410-0319
静岡県沼津市井出 1196
電話055-966-2709

野山に若葉の茂る四月下旬、伊藤雅章さんが製茶業を営む静岡県沼津市は、新茶のシーズンを迎える。新茶の魅力は爽やかな香り。湯を注ぐと、鮮やかな緑色に風味と香りが凝縮される。その特徴を最大限に生かすため、伊藤さんは、朝から工場で機器の調整に余念がない。生産者から摘みたての葉が運び込まれて、工場がみずみずしい青葉の香りで満ちると、機械から蒸気が上がり、お茶づくりが始まる。

茶農家の祖父が、近隣の同業者と製茶工場をつくったのは五十年前。祖父や、後を継いだ両親が黙々と働く背中を見て育った伊藤さんは迷わず同じ道を志し、農業高校と静岡県立農林短期大学(当時)で茶業を学んだ。現在、茶葉を栽培しつつ、販売業者に納める原料の荒茶や、

小売り用自社製品を生産する。

近年は、原料卸値が安い低価格のペットボトル茶飲料が多く販売されるようになり、農家に利がなくなってきた。生産者の高齢化から離農や転作も増えている。そこで、地元の製茶産業を活性化させようと、十年前に同業の仲間と有機栽培を始め、海外進出も視野に入れた「富士山茶」というブランドを立ち上げた。

除草剤をやめた途端に畑は雑草が茂り、しばらくは畑に行くのが怖かったという。炎天下で雑草や害虫と向き合う過酷さに、やめようか、という思いも湧いた。けれど手応えを得た今は「丁寧に世話をした木の茶は、コクと旨味が違う。手間の分だけ味で答えてくれるから、楽しくて仕方がない」と話し、愛おしげに畑を見つめる。

立正校成会の熱心な信者だった祖父から受け継いだ思いを、「経営理念」として工場の事務室に掲げる。「共に生きるために／大自然の恵みに感謝し／勇気と思いやりの心で／使命感を持って経営に動かしむ」。



*立正校成会経営者サンガネットワーク「六花の会」
<https://rikkanokai.jp/community/>
7月1日から上記HPでもこの記事がご覧になれます。